

## 国内外の動向の取りまとめ方法について（案）

国内外の動向の取りまとめに当たっては、日本、北米、欧州の3カ国・地域における ITS 関連の標準化動向及び ITS 関連技術の開発動向について、(1)自律型システム、(2)車車間通信システム、(3)路車間通信システム、(4)人車間通信システム及び(5)シームレス通信システムの5つの区分ごとに以下の表のように整理を進めることとしたい。

また、整理に当たっては、取組みの主体、取組み概要、取組む理由、目標とする時期、現在の進捗状況、今後のスケジュール等が明確になるように、当初各社から提出された情報を精査するとともに、追加情報を取りまとめることとしたい。

## 〈取りまとめ例〉

|              | 日 本  | 北 米   | 欧 州   |
|--------------|--|---|---|
| (1)自律型システム   | ①59-66GHz 帯は特定小電力伝送システム用に割り当てられており、60-61GHz は無線標定用周波数とされている。   | ①79GHz 帯標準化に向け検討中。<br>②ダイムラー社を中心とした SARA (Short range Automotive Radar frequency Allocation)がある。  | ①79GHz 帯標準化に向け検討中。<br>②EU による直接開発投資の動きもある。  |
| (2)車車間通信システム | ①5.8GHz 帯は路車間通信用に割り当てられており、ITS 標準化会議の専門委員会等で車車間通信の技術的議論がなされている。<br>②5.8GHz DSRC 標準化が ITS 情報通信システム推進会議と連携し、ARIB STD-T75 や T88 の規格を完成させている。これらの規格は既に ITU-R | ①ISO においては、CALM が 5GHz 帯で標準化の議論をしている。また、ISO/TC204 では WG16 で車車間のリクワイアメントについての検討が始められ、JARI/ITS センターが協力している。<br>②VSCC: Vehicle Safety Communication Consortium がある。<br>③IEEE にて無線 LAN 技術をベースに、 | ①欧州では民間コンソーシアムである C2C-CC (Car to Car Communication Consortium) において自動車メーカーを中心に車々間通信の標準化活動中。 |

|                 |   |   |   |
|-----------------|---|---|---|
|                 | 勧告化されている。   | 5.9GHz 帯を利用した IEEE802.11p の路車間、車々間含む通信方式の標準化が実施されている。   |   |
| (3) 路車間通信システム   | <p>①5.8GHz 帯は路車間通信用に割り当てられており、ITS 標準化会議の専門委員会等で車車間通信の技術的議論がなされている。</p> <p>②国内においては 5.8GHz DSRC 標準化が ITS 情報通信システム推進会議と連携し、ARIB STD-T75 や T88 の規格を完成させている。これらの規格は既に ITU-R 勧告化されている。</p> | <p>① I S Oにおいては、C A L Mが5 G H z 帯で標準化の議論をしている。また、ISO/TC204 では WG16 で車車間のリクエストについての検討が始められ、JARI/ITSセンターが協力している。</p> <p>②VSCC:Vehicle Safety Communication Consortiumがある。</p> <p>③IEEE にて無線 LAN 技術をベースに、5.9GHz 帯を利用した IEEE802.11p の路車間、車々間含む通信方式の標準化が実施されている。</p> | ①欧州では民間コンソーシアムである C2C_CC (Car to Car Communication Consortium) において自動車メーカーを中心に車々間通信の標準化活動中。 |
| (4) 人車間通信システム   | <p>①59-66GHz 帯は特定小電力伝送システム用に割り当てられている。</p> <p>②61GHz 帯は無線標定用周波数とされている。</p>  |   |   |
| (5) シームレス通信システム | 国内外で前例が無い。  | 国内外で前例が無い。  | 国内外で前例が無い。  |